

第5回 昭島市男女共同参画推進委員会 議 事 要 旨

〔日 時〕 平成 24 年 9 月 13 日（木）18：30～20：30

〔場 所〕 昭島市役所 3 階 庁議室

〔出席者〕

1 委員

金野美奈子委員長、柴田邦臣副委員長、石井登志枝委員、加藤教子委員、樽松洋委員、原幸子委員、平野博典委員

2 事務局 佐藤企画政策室長、市川男女共同参画担当主査、吉野企画調整担当主事

3 傍聴者 1 名

〔欠席者〕

安済文幸委員

〔配布資料〕

- ・ 第 5 回男女共同参画推進委員会 次第
- ・ 第 4 回昭島市男女共同参画委員会議事要旨
- ・ 進捗状況評価シート（第 4 回分）
- ・ 事前質問回答

〔議事要旨〕

1 男女共同参画プランの評価その 3 について

目標Ⅲ 2－（1）子育て・家事支援

- ◆本日は最後まで8項目についての評価を審議していただくことと、次回の評価のまとめに向けた総括的なご意見をいただくこと、この2点をお願いする。最初に事務局から事前質問も含めて、説明をお願いしたい。【金野委員長】
- 主要事業№.86～99までについて、主管課の実施状況では○が17、△が2、×が3。評価では a が6、b が11、c が2、d が3となっている。【事務局】
- ◆それでは各委員から評価をお願いします。【金野委員長】
- ◆評価「良」。男女共同参画プランでは、保育園と学童クラブの定員数を増やすことが目標指標になっている。しっかりと取組んでほしい。№.91では、施設の充実と民間に委託したことは異なるものだと考えるので、進捗状況報告書の書き込みには違和感がある。№.99、単に資料等の配布が関係機関との連携といえるか、支援することが連携ではないか。何かをやりませただけの記載で、計画に対しての実績が記載されていない。この点が次年度以降の進捗状況調査の課題になる。№.92～93はよくやっていると思う。市民への受け入れが良いのは事実である。【平野委員】
- ◆評価「優」。事業に対する実施状況で判断し優とした。継続した事業については概ね実

- 施できているので、引き続きしっかり取組んでほしい。地域で増加している核家族やひとり親家庭に対してのサポートができている点も評価した。【原委員】
- ◆評価「優」。進捗状況調査の結果が a 又は b の内容でよくやっている。No.91が気になった、「児童センター等の施設の充実」で、この事業内容が充実といえるのか。また、No.99、ひとり親家庭への自立支援で関係機関との連携がどのようなことなのかよく理解できなかったが、総合的には「優」とした。【樽松委員】
 - ◆評価「優」。全体的に事業が実施できている。No.97の講演会「仕事と子育て応援パパになろう」はとてもいいものだったので、こういう講演会を継続してやってほしい。【加藤委員】
 - ◆評価「優」。実際に学校現場から見て、学童保育や放課後子ども教室も増えているので、親が安心して働ける支援ができている。【石井委員】
 - ◆どの項目も今までの蓄積がある程度あるので高いポイントになっている。No.98、「ひとり親家庭に対する支援体制の整備」の担当が母子相談員になっているが、父子家庭も困っているケースは多いと思うがその相談はどうなっているのか。【柴田副委員長】
 - 父子家庭に対する相談や支援、たとえばひとり親ホームヘルパーの派遣事業などは、ひとり親施策事業として、母子相談員が担当している。【事務局】
 - ◆No.88～89は良い事業だと思うが、実績の数字が高すぎる気がする。これは1年間の数字でよいのか。【平野委員】
 - No.89の会員数は今までの登録の累積を指すが、相談件数や活動件数は1年間の延べ実績になる。【事務局】
 - ◆ひとり親に対するホームヘルパー派遣事業などは、きわめて重要度が高い施策であるから明記してほしい。【柴田副委員長】
 - ◆「優」が4、「良」が1で全体としては「優」の評価としたい。【金野委員長】

目標Ⅲ 2－(2) 高齢者・障害者等の介護・介助を担う男女への支援

- 主要事業No.100～106 までについて、主管課の実施状況では○が3、△が7、×が1です。評価では a が1、b が5、c が5となっています。事前質問は事業No.105、「「高齢者・障害者等の相談体制の充実」相談体制は評価できるが、現状の体制で問題解決に至っていますか。」があり、回答は資料のとおりです。
- ◆各委員の評価をお願いします。【金野委員長】
- ◆評価「可」。この施策の狙いは介護、介助をする人への支援であり、問題点に対するシステム作りをどうするかが本質的な課題となる。法律で定められた範囲内での介護をやるのは当たり前のことだが、それ以外の部分をどうするのか。No.105では、介護福祉課が、今後増加する対象人口を課題として捕らえ、対応策の検討を明記しているが、この点は評価できる。【平野委員】
- ◆評価「良」。No.101～102、介護に対する男性向けの取り組みが不十分。男性の意識の啓発に男性向けの介護講座の開催が必要である。【原委員】
- ◆評価「可」。No.100は計画を立てることが主となっているがそうではなく、事業を実施することが目的ではないか。No.102は×であるのに、評価が d ではなく、c であるということも疑問である。【樽松委員】
- ◆ No.100「介護保険事業計画の推進」とは具体的にはどういうことか。【金野委員長】
- 介護保険は3か年の事業計画を順次策定して行くことが法律で規定されている。この計

画に基づき事業を実施しており、計画を推進することが高齢者介護の推進につながる。
こうしたことから、適切な計画を策定することもポイントとなる。【事務局】

◆No.103の説明に対して、No.100は計画を立てるのみでよいのか。【樽松委員】

○介護福祉課では現行の計画に基づき事業を実施しながら、新たな計画を策定している。
計画の推進が事業の推進につながるという点では、高齢者介護と全く同じである。【事務局】

◆評価「良」。No.101「男性の介護参加の啓発及び講座の実施」では、男性に限定した介護教室を開催してみてもどうか。【加藤委員】

◆評価「可」。3施策の項目どれも中途半端な感じがする。介護する側への支援の実態が見えてこない。【石井委員】

◆この部分は、これまで男女共同参画の焦点がなかなか当てられることがなかった。介護や障害に総力を挙げて取り組むのは当然のことであり、これに、男女共同参画の視点をどうやって取り入れようとしたかを、進捗状況報告書に書いてほしい。【柴田副委員長】

◆「良」が2、「可」が3で全体としては、「可」としたい。【金野委員長】

目標Ⅳ 1－（1）政策・方針決定参画の拡大

○主要事業No.107～108までについて、主管課の実施状況では7個すべて○です。評価ではaが4、bが3となっています。【事務局】

◆各委員の評価をお願いします。【金野委員長】

◆評価「可」。審議会における女性委員の割合を現状29.2%から35%にして40%にするというのがプランの目標指標であり、大きくいえば、政策決定に係わる女性の比率を上げるということになる。狙いとしては主要な団体で、政策決定に係わる女性がどのくらいいるのか、また、今後、どれだけ増やしていくかが分からないと評価は難しい。単発でなく長い間の蓄積で考えるべきで、市として支援していく基本となる団体はあるのか、説明がすべてに置いてファジーである。現状と目標とターゲットとなる団体を記載してほしい。【平野委員】

◆現状をクリアに説明する必要がある。【金野委員長】

◆評価「良」。会議の開催は出席しやすい時間帯を考慮するなどして、女性の比率を上げる努力をしてほしい。夜の会合などでは、女性は出たくても介護や家族の事情で対応できない場合がある。【原委員】

○審議会等の公募の市民委員に男女枠を設けることや会議を昼間や土日に開催するなど、女性が参加しやすい工夫をするなど努力はしているが、委員全体の都合から夜になってしまう場合もある。女性が参加しやすい会議の開催について、引続き取り組んでいきたい。【事務局】

◆評価「優」。実施内容を見るとそれなりの成果が出ている。【樽松委員】

◆評価「可」。産業振興まつり、環境フェスティバルなど、一つひとつの事業が男女共同参画の視点で実施して、どうなったのかが、こうしたことが見えてこなかった。【加藤委員】

◆目標をどこに置いているのかが、見えてこないということですか。【金野委員長】

◆No.108、社会教育の「青少年フェスティバル」も男女共同参画の視点での目標を掲げて実施しているのかが明らかになっていない。【加藤委員】

- ◆評価「可」。「青少年フェスティバル」の実行委員は、たまたま女性の委員が多かったのか、それとも努力して半々になったのか明らかでない。また、公募等で対応しているとはいうが、女性委員比率は低いので、男女の視点での働き掛けが弱かったような気がする。【石井委員】
- ◆会合での保育室の対応ができれば良いのだが。【金野委員長】
- イベント等ではできる限り対応しているが、夜間の会議等については、保育士の確保など難しい面もある。【事務局】
- ◆事業を企画したり、目標を立てる段階で、女性の参画に対して意識を持ってほしい。【柴田副委員長】
- ◆「優」が1、「良」が1、「可」が3で全体としては「可」としたい。【金野委員長】

目標Ⅳ 1－（２）人材育成と活用の促進

- 主要事業No.109～110 までについて、主管課の実施状況では×が3、評価ではbが3、となっている。事前質問は事業No.109、「女性のための政策決定能力向上に関する講座の実施」出来なかった理由、事業No.110、「女性人材リストの作成と活用」「女性人材リスト」にはどのような分野の人々を指していますか。例えば職業別やボランティアで活動している人々などでしょうか。」などがあり、回答は資料のとおりです。【事務局】
- ◆各委員の評価をお願いします。【金野委員長】
- ◆評価「不可」。これはすべて実施されていないのだから、評価するまでもない。【平野委員】
- ◆ここは男女共同参画の基本の一つとなるような部分である。成果が出るように進めてほしい。女性のための人材育成講座などは市民会館・公民館ではなく、企画政策室で実施することもできるのでは。次の主要施策であるNo.115 と共通するが、子ども会、父母会など女性が中心になっているのに政策の決定に参加していないのはもったいない。女性の人材を育成する、女性リーダー事業を進めてほしい。【原委員】
- ◆「女性人材リストの作成」は新規事業なのか、継続事業ではないか。他市の状況を調べてほしい。【平野委員】
- 市民との協働や生涯学習の分野では、既に人材リストを検討している。市でいくつも作成する必要はないので、現時点では、総合的な人材リストから、男女共同参画の分野でソートできるようなシステムを検討している。他市の状況をみると、リストの登録者の確保やリスト作成後の更新などに苦労しているようである。また、企画政策室で講座を開催することは財政面も含め困難性があると思う。市民会館・公民館でも毎年の実施は難しいが、何年かに1回は、講座の対象として検討してほしい。女性リーダー育成の課題は現状が追いつかない状況である。【事務局】
- ◆学校で保護者が対象の人材育成研修会の開催はあるか。【原委員】
- ◆学校は子を中心なので、学校でそういう研修をやるからどうぞというのは難しい状況である。広い意味での地域活動で広報の発行やパソコンを教えるなど、一人ひとりが持っている特技等を活かした取り組みができればよいのではないか。【石井委員】
- ◆リーダー育成の基本となる部分はOJTが担うのではないか。そのために、まず、社会团体等への女性の幹部登用が必要である。【平野委員】
- ◆評価としては「不可」となる。課題を少しずつ進めて行ってほしい。【金野委員長】

目標Ⅳ 2－（１）地域活動への男女共同参画

○主要事業No.111～122 までについて、主管課の実施状況では○が 9、△が 13、×が 3 です。評価では a が 9、b が 9、c が 4、d が 3 となっています。事前質問は事業No.111、「地域団体のネットワークづくりや支援体制の充実」シニア大学への補助金が平成 23 年度で終了する理由。」、No.112、「地域活動に関する情報提供」の中の、「市民活動団体情報コーナー」はどこにありますか。」No.113、「関係機関との連携によるボランティア活動への支援」の中の、「昭島ボランティア運営委員会に参画」とありますが、どのような形で参画しているのでしょうか。内容までわかれば知りたいです。」No.115、「自治会や地域団体に対する女性リーダー育成と活用の促女性リーダー（自治会長）は何人で何割ですか。②女性の役員は何人中何人で何割ですか。」No.117、「男性の地域参画の推進」の中で、昭島市内には、たくさんの男性グループ・団体があると思いますが、子育て世代（30 代くらい）の男性グループ・団体は存在しますか？もしあれば、どのような活動をしていらっしゃるのでしょうか。」No.120、「防犯分野における男女共同参画の推進」支援の内容を詳しく。」などがあり、回答は資料のとおりです。【事務局】

◆各委員の評価をお願いします。【金野委員長】

◆評価「可」。自治会長の目標指標は達成できているのでは。【平野委員】

◆達成した状況が継続できるように、今後も働きかけて行きたい。【事務局】

◆女性を幹部にするには、共助の面で重要と考える。男女共同参画の観点から見ると「補助をするから女性幹部を多くする」などやってはいけないことではあるが、こうした取組を検討することもある必要ではないか。また、若い人からみて、高齢者はある意味対立するものであるが、その人達を若い人のために役立てる無償ボランティアなどで「老人力」を使うことも検討してほしい。No.119、「防災分野における男女共同参画の推進」では女性消防団員の育成はよい。No.121 の都市計画審議会では委員が同数だが、最初から同数の設定なのか。【平野委員】

○最初から男女の枠を設けて同数で設定している。【事務局】

◆そうならば、女性の応募者を増やす努力をしてほしい。また、経年変化で、現状、目標、実施した支援の内容等を把握し、進捗状況報告書などで分かるようにしてほしい。今は情報がファジー過ぎる。【平野委員】

◆評価「良」。この施策は幅が広い。介護などが必要で、家で一人にしておけないような人に対して市独自の支援を考えてほしい。No.118、「シルバーボランティアの活用」では、高齢者が積極的に活躍できる支援をしてほしい。新規の取り組みも成果を上げている。【原委員】

◆評価「可」。地域の自治会では夜の総会が月 1 回あるが、出席者の 8 割は女性である。しかしながら女性のリーダーが居るかという点、昔から住んでいる人が多くいるため、自治会などでのそうした活動は難しい現状である。私自身は生き甲斐が必要であると考え、ボランティアではなく仕事として取組んで行きたい。いくらかでも収入につながれば、高齢者も生きがい感じられるのでは。物足りない部分もあったが、それは今後に期待したい。【樽松委員】

○わずかだが、報酬を出す有償ボランティアというものもある。【事務局】

◆評価「良」。PTAや地域活動をやっているが、能力のある女性が身近にたくさんいる

ので、活用してほしい。No.116、女性が地域で活動するため、一時保育の周知に努めてほしい。No.117、健康課が実施した、「フレッシュパパママ学級」は多くの男性の参加があると聞いた。忙しくなるからか管理職となる世代の子育てへの取組がないことがさみしい。シニアの世代に引っ張ってほしい。【加藤委員】

- ◆評価「良」。市は活動できる場を提供してくれている。幹部の男性を支える縁の下の力持ち的女性の活躍があるのではないかな。シルバー世代の活躍の場面をもっと作ることは、社会活動への参画という部分で大事である。学校現場ではシニアの方に貢献してもらっている。【石井委員】
- ◆この項目、「地域活動への男女共同参画」は全体のプランの縮図となっていて、この部分の成果が上がれば、男女共同参画の成果が上がるといっても過言ではない。頑張っているところも苦戦しているところもあるが前向きに期待したい。昨年の震災以前のプランだと思うが、No.119、「防災分野における男女共同参画の推進」は先見の明があったと言える。男性女性関係なく頑張してほしい。【柴田副委員長】
- ◆「良」が3、「可」が2、全体的では「良」になる。【金野委員長】

目標Ⅳ 2－(2) 国際的取り組みとの協調

○主要事業No.123～131 までについて、主管課の実施状況では○が6、△が3、×が5です。評価ではaが4、bが4、cが3、dが3となっています。事前質問は事業No.130、「国際交流を進める市民への支援」①今までに関連する相談はなかったのですか。②昭島市内には国際交流を求める団体は存在しますか。」No.131、「国際支援活動に関する情報提供」①チラシを見たい。②国際支援活動とはどのような内容を想定していますか。」などがあり、回答は資料のとおりです。【事務局】

- ◆各委員の評価をお願いする。【金野委員長】
- ◆評価「可」。事業No.126～127、「平和に対する取り組みの推進」で男女共同参画の視点で国際交流を見てほしい。昭島には2,000人ぐらいの外国人がいて、日常生活で困っていることもあるが、それらに対する支援の施策が出ていない。日常生活を支援するボランティア団体を作るなど、昭島市の実情に合った国際交流の支援をやってくれればよい。【平野委員】
- ◆評価「可」。No.123について、市内で活動している団体もあるので、「開発と女性」理解を深めるためにも、女性人材リストの作成が必要となる。No.124、「男女共同参画に関する国際機関等の情報提供」はホームページに国連機関や内閣府の情報にリンクを張り、気軽に情報提供できるように検討してほしい。女性センター機能ができてからではなく、今度更新するときに実行してほしい。No.127、「平和に関する教育・学習機会の提供」は図書館でそれに関する資料をテーマ別に展示するなどし、視覚で市民に訴えることをしてほしい。【原委員】
- ◆評価「可」。子どもを海外の学校に入れた経験があるが、海外では何もしてくれなかったが、学芸会を夜にしてくれる、また、給食費を払えない人は弁当を持ってくるなど、一律ではないサービスの提供があった。現時点では「可」だが、将来に向けての課題としてほしい。【樽松委員】
- ◆評価「可」。国際交流を求める支援団体が思ったより多かった。この支援団体間で相互交流して、国際理解を高めてほしい。【加藤委員】
- ◆評価「可」。小学校では外国人の母親が、言葉が分からず困っているので支援が必要で

- はないか。平和については関心が高いが、国際的な取り組みには関心低い。【石井委員】
- ◆全員の評価が「可」なので、全体の評価も「可」としたい。【金野委員長】

目標Ⅳ ３－（１）市民参画による計画の推進

○主要事業No.132～137 までについて、主管課の実施状況では○が 5、×が 1 です。評価では a が 4、b が 1、c が 1 となっています。事前質問は事業No.135、「男女共同参画条例制定の検討」なぜ条例制定の検討がないのか理由を。」があり、回答は資料のとおりです。【事務局】

◆各委員の評価をお願いします。【金野委員長】

◆評価「良」。企画政策室の「市民参画による計画の推進」、この努力に対しては高く評価する。しかし、「Hi あきしま」は市民意識調査で知っている人の割合 22・9%と高いのに対して、「男女共同参画プラン」を知っている人の割合は、6%と低くギャップがある。情報誌の目的が活かされていないのではないかと、編集方針を見直す必要がある。また、男女共同参画センターを作るというニーズは高いのか。自分の所に匿名で電話があった。活用が仲良しクラブ的であり、議事録の提出もない、管理がいい加減である。もっと重要な資金を掛けなければいけないものがあるのではないかと言うものだった。【平野委員】

◆そういう意見はあるのでしょうか。【金野委員長】

○ニーズについては当然あると考えているが、他の施設と比較すると、当然差があると思う。保育園と比較すれば、市民ニーズは保育園の方が高いのではないかと。しかしながら、男女共同参画センターは男女共同参画に係わる市民活動の拠点として位置づけており、フレキシビリティ（柔軟性）は高い。また、相談業務など、土日の対応はセンターを拠点とすることを想定している。まだ、設計が固まったわけではないので、確定したものではないが、今回複合施設に整備できなければ、なかなか次の機会はないものと考えている。【事務局】

◆男女共同参画センター機能として、四六時中使用するのか。それとも、色々な意味で使用すると解釈してよいのか。 【平野委員】

○男女共同参画に係わる事業は幅広く、平和事業、国際化、女性に向けたセミナー利用など様々なものがある。また、関連する市民活動への貸し出し等も考えられる。男女共同参画の拠点としての性格を有するとともに、幅広く市民に活用される施設としたい。【事務局】

◆男女共同参画センターは拠点となる大変重要なものである。その場所で講演会等の開催などの 1 本化を図ることができる。【原委員】

○ある程度の 1 本化は図れると思うが、講演会などそこでのみの開催ではなく、市民会館・公民館等他の場所で実施することもあると考えている。【事務局】

◆そこは指定管理者にするのか。【柴田副委員長】

○現在のところ未定。相談等、専門性のあるものは委託していく考えである。【事務局】

◆評価「良」。No.132、周知度をアンケートで実施してほしい。「男女共同参画プラン」の学校への配布はしていないのか。【原委員】

○市内小中学校には配布しているが、高等学校には配付していない。【事務局】

◆高校にも配布してほしい。また配布されたものを誰でも活用できるようにしてほしい。【原委員】

- ◆評価「良」。市民でホームページを見る人は限られている。1割もいないのではないか。地方に行くと宣言塔が立っているが、昭島市にはないのか。【樽松委員】
- ◆宣言塔はない。【事務局】
- ◆評価「優」。男女共同参画という言葉があまり知られていない。複合センターができれば利用は多いと思うので期待している。愛称に男女共同参画という言葉が入れば浸透するのではないか。【加藤委員】
- ◆評価「良」。市として頑張りはあるが、受け止める側の市民の認知が低いのではないか。【石井委員】
- ◆同じく、市として頑張りはあるが、受け止める側の市民の認知が低いと感じる。【柴田副委員長】
- ◆「優」が1、「良」が4で、評価は「良」としたい。引き続き周知・広報に力を入れてほしい。【金野委員長】

目標Ⅳ 3－（２）庁内推進体制の充実及び関係機関との連携

- 主要事業No.138～148 までについて、主管課の実施状況では○が11、△が2です。評価ではaが1、bが10、cが2となっています。事前質問は事業No.139、「市男性職員の育児・介護休暇積極的取得の推進」育児・介護休暇の実際の取得状況は何人ですか。そのうち男性は何割ですか。」No.141、「女性管理職登用にに向けた人材育成」女性管理職の割合。」No.144、「関連事務担当課長会の開催」、No.145「担当部署の組織強化」実行されていますか。」があり、回答は資料のとおりです。【事務局】
- ◆各委員の評価をお願いします。【金野委員長】
- ◆評価「優」。総じて前向きに取り組んでいるので評価する。職員は理念を高く掲げている。計画推進体制の整備や仕組みの見直しを新たな取組として行っている。進捗状況、目標と実績が市民にきちんと分かるようにしてほしい。関係機関との連携は常時でなくても、必要に応じての連携することでよいから取組んでほしい。【平野委員】
- ◆評価「優」。概ね実施されているが、No.141 クォーター制の導入はどうなっているのか。【原委員】
- 現実的にクォーター制は難しい。【事務局】
- ◆係長に研修を実施して女性課長にできないのか。【原委員】
- 女性に特化したものを実施する状況にはない。市の管理職の数は国と比較しても低くは無い。【事務局】
- ◆女性管理職の数は、2007年は確か1人であったので増えていると思う。【原委員】
- ◆係長の割合は。【金野委員長】
- 後日、調べて報告したい。【事務局】
- ◆評価「良」。プランに女性の登用と限定するのか。差別があるのなら別だが、逆に女性だけが優遇されるようで問題があるような気がする。【樽松委員】
- ◆評価「優」。庁内の女性に頑張ってほしい。【加藤委員】
- ◆評価「優」と「良」の間。庁内では男女共同参画は意識されて取り組んでいる。最近管理職になろうとしている人財が男女共に少ない。大変なことは避けてのんびり行こうというのが現状では。男女同じレベルなのに女性だから管理職になれないという状況はない。それぞれの意識の問題である。【石井委員】
- ◆クォーター制やアファーマティブ・アクションは、顕著で耐えがたい差別や蔑視があり、

- それを溜めて留保している場合のみの、提案や発動であるとする。【柴田副委員長】
- ◆評価は「優」とします。評価に関しては以上です。ありがとうございました。【金野委員長】

2 評価に向けた総合的な意見について

- ◆3回の推進委員会の評価を通して、総括的なご意見を一言ずついただきたい。既に、「次年度以降の評価方法について」と「進捗状況報告書の実績欄が未実施との記載となった事業の取組姿勢」の2点が意見としてある。それ以外の意見があれば、お願いしたい。【金野委員長】
- ◆目標と実績がきちんと記載されていない。施策も事業も狙いをきちんと記載してほしい。上からの関連で判断していない。実施した事業だけを見ている。上からきちんとと下ろして、マッチしたものをアウトカムで評価してほしい。【平野委員】
- ◆男女共同参画の目的をどう伝えていくかという意見もあった。【金野委員長】
- 提言をまとめていくにあたり、意見があればお願いしたい。【事務局】
- ◆担当部署で×が多いから、次年度以降も実施できないのでやめて差し替えるというようなものはないか。【原委員】
- 10年間の計画でもあり、次年度での変更は困難である。【事務局】
- ◆評価基準に沿った、評価ができなかった思いがある。【樽松委員】
- ◆色々な意見を聞き、良い評価ができた。問題点をフィードバックさせて次に生かしてほしい。【加藤委員】
- ◆評価は難しい。文字では表せない部分を市民がどう受け止めているかをプランに反映させて行かないといけない。【石井委員】
- ◆評価の方法について手探り状態だったが妥当な評価でき、最終回はきわめてすぐれた委員会となった。来年度にも活かしていきたい。【柴田副委員長】

3 その他

事務局から次のとおり説明。

- ・第5回議事録と評価のまとめを送るので、早めにご確認をお願いします。
- ・次回、第6回委員会の開催は、10/10（水）午後6時30分から開催する。
- ・次回の委員会で、提案に向けた総括的な評価をお願いします。